

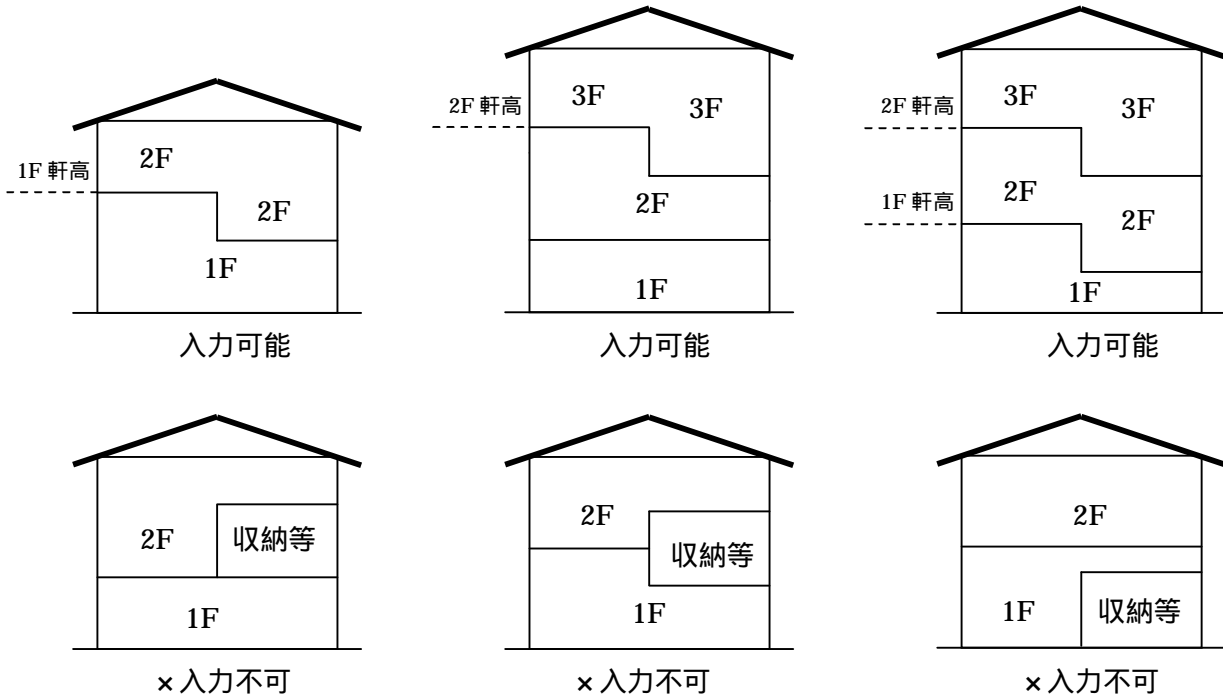
スキップフロアの入力例

<注意事項>

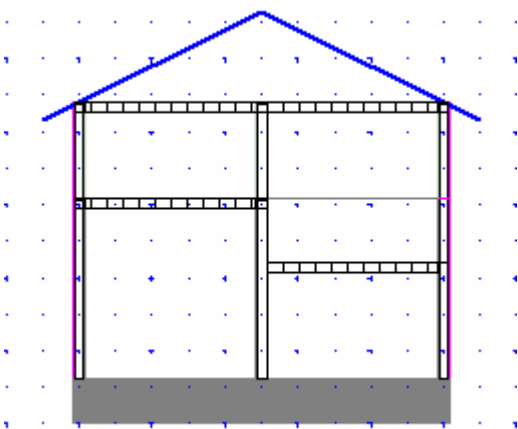
階にレベル差のあるスキップフロアは下図の例に限って入力可能です。鉛直方向の荷重も水平方向の荷重も、通常の物件と同様に計算出力されます。(水平方法は、同じレベルとして計算されます。)

スキップフロアの構造計算方法は設計法など明らかになっておりません。STRDESIGN の計算結果の適応可否は設計書の方の判断になります。

1. 入力できるスキップフロアの例



2. 入力例

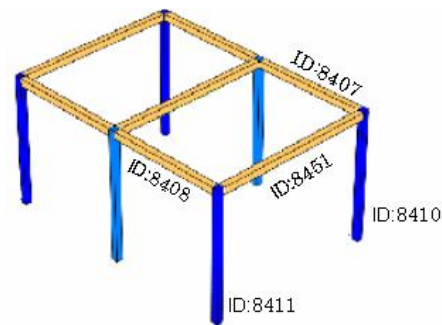
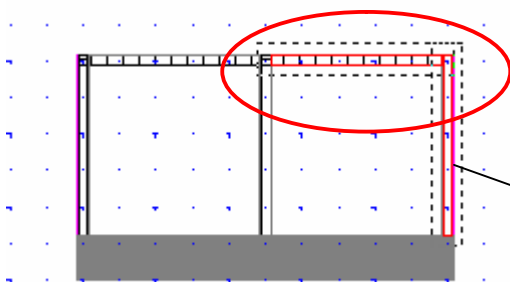
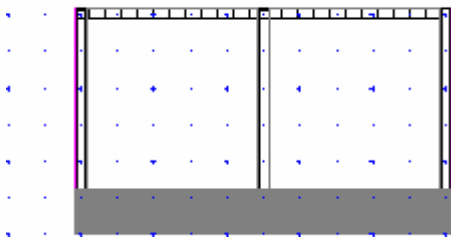
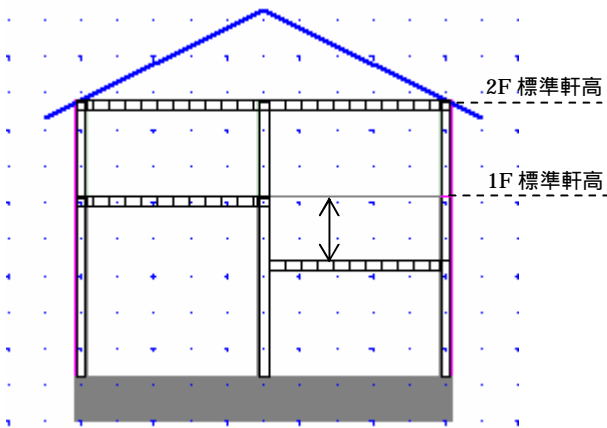


注意事項



- ・ 床にレベル差があっても水平力に対する検定は同一レベル(標準軒高)の床として計算されます。
- ・ 必ず部材のZ座標を一致させてください。

各階の標準軒高を決定し、「建物概要」の軒高 (mm)に入ります。

この例は、左側 2F 床レベルは標準軒高にあり、右側は標準軒高から 800 (mm) 下がります。



1 階の「外周」、「部屋」、「柱」及び「梁」を入力します。

立面表示  に切り替え、レイヤ  を梁にしてください。

座標移動で右側の「柱」と「梁」を 800 (mm) 下げます。

マウスを右クリックし、「座標移動」機能を選択します。

左図の楕円に位置を囲むように、左クリックでドラッグします。

選択されている部材の状態は「点線」+「赤色」で表示されます。

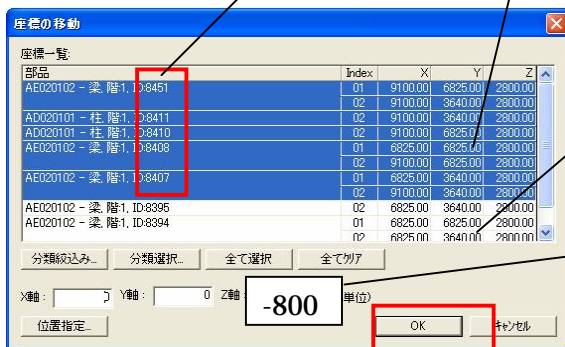
各部材の ID は、各部材のプロパティにて確認ください。

プロパティ	
項目	内容
分類コード	AE020102
階区分	1
ID	8531

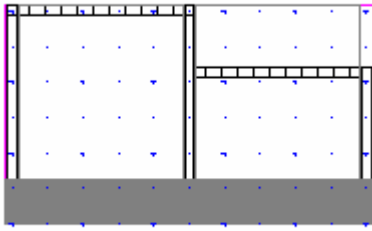
プロパティに ID が表示されない場合は、「ツール」 「オプション」 基本タブ「プロパティに共通部を表示する」にチェックを入れてください。

座標移動しない梁、柱はクリックして、選択状態を解除してください。

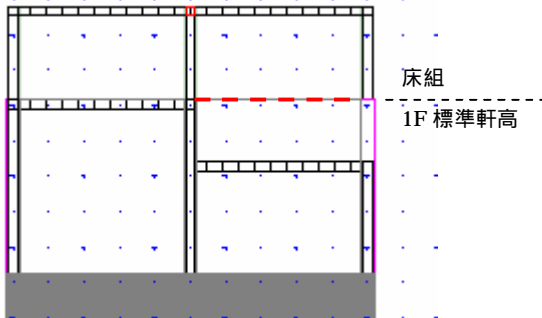
Z 軸 : [] 欄に座標移動値を入力し、「OK」で確認します。



立面表示にして確認します。



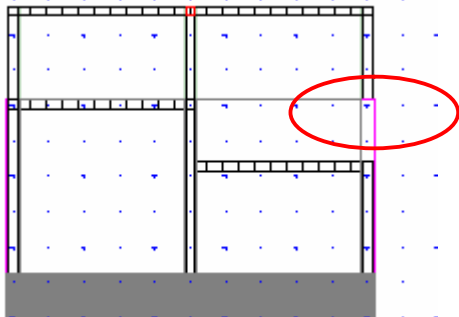
続けて2階に切り替え、2階の部材を入力します。



2階に「柱」、「梁」、「外周」、「部屋」、「床組」を入力後、立面表示にし、レイヤを梁にします、右側の柱脚が浮いていることが確認できます。

立面表示には確認できませんが、床組は1Fの標準軒高に設定されています。

「座標移動」で浮いている柱脚座標を編集します。

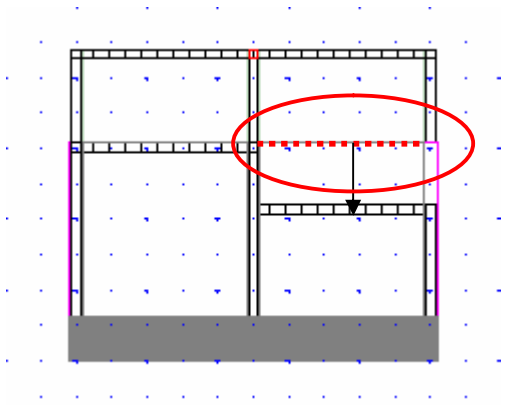


マウスを右クリックし、「座標移動」機能を選択します。

左図の楕円に位置を囲むように、左クリックでドラッグします



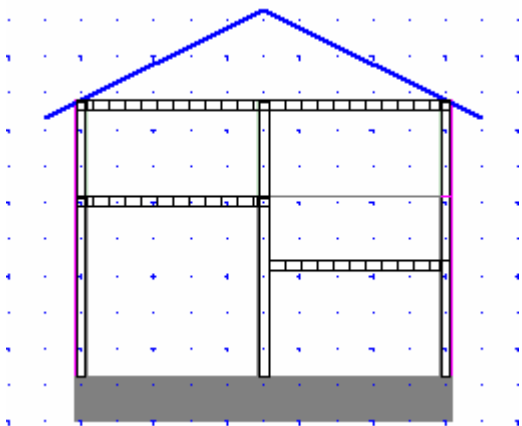
柱脚 (Index=1) を選択します。部屋は選択を解除してください。
Z 軸: [] 欄に座標移動値を入力し、「OK」で確認します。



標準軒高に設定されている右側の床組と梁の Z 座標と一致しなければ、計算時受け材がないエラーになりますので、マウスを右クリックし、「座標移動」機能で床組を移動します。左図の楕円に位置を囲むように、左クリックでドラッグします



床組を選択します。 梁は選択を解除してください。
Z軸:[] 欄に座標移動値を入力し、「OK」で確認します。



立面表示に切り替え、部材座標が一致していることを確認します。

残りの部材を入力します。

以上